龍爪

第３号
静岡大学
理学同窓会報
（第39号）
年１回発行　非売品

静岡大学
理学同窓会事務局
〒422-8529
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
電話・FAXともに
（054）238-3081
E-mail:
scialm@shizuoka.ac.jp
振替　00860-4-60479

新技術時代における大学の課題

理学部長　山本　歩

「春の訪れを心からのお祝い申し上げます。新しい季節が皆様にとって活力と喜びに満ちたものとなり、同窓の絆がより一層深まることを願っております。どうぞ楽しい春をお過ごしください。」

この文章はChatGPTという今話題の生成ＡＩ（Artificial Intelligence）を用いて作成したものです。「学部長の同窓会員に対する春の挨拶文を教えてください。」という問いかけをしただけで、数秒のうちに作成されました。このようにちょっと前までは想像できなかったような新技術が、どんどん登場しています。これら技術革新の波は大学にも大きな影響を与えています。例えばインターネット上の翻訳機能の向上により、英語で論文を読まずとも内容を理解でき、生成ＡＩによって専門家の文章を凌駕するようなレポートを容易に作成することも可能です。また、大学に行かなくてもオンラインで講義を受け、研究情報もインターネットで容易に手に入れることができます。

しかし、このような新技術の登場により、様々な問題も生じています。インターネットを利用して苦労せずに様々な答えが得られるため、学生の思考力・創造力の低下を招き、さらに翻訳機能の向上に伴い、論文の大筋は分かっても詳細は理解できないということが起こっています。容易にインターネット上の文章・データ等を利用できるため、剽窃・盗用に対する倫理観の欠如も助長されているようです。またオンライン講義では学生に合わせた講義ができず、学生も集中できないため、教育効果が上がらないということもよく耳にします。日々新たな技術が生まれるため、教育・研究現場がそれらに即応できず混乱が生じ、新技術による環境変化に対応するため、教職員にも相応の負荷がかかっています。

このように様々な負の側面はあるものの、新技術を活用すれば、教育効果を飛躍的に向上させ、研究も効率良く進展できるのも確かです。人員や予算の削減に苦しむ地方大学や理学部の活性化にも、大いに役立つ可能性があります。新技術を有効に活用しつつ、技術では補えない独創性や創造性を有した人材を育成していくことが、大学の現在の大きな課題の一つだと思います。このような人材育成のためには、経験豊富な同窓会の皆様のご支援・ご協力が欠かせません。今後とも理学部の発展のためにご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

理学部教育支援寄付をお願いします

はじめに、昨年度は多くの皆様から理学部教育支援・同窓会運営支援にご寄付を賜りありがとうございました。おかげさまで無事に事業が推進できておりますが、ご支援、ご協力がなければ、ご送金ください。よろしくお願いいたします。

一方で、理学部Ｃ棟の改修費用に加え、基礎研究に関わる助成金や運営費の削減など厳しい財政状況のなか新たな同窓会室（Ｃ棟206）の整備をしていただきましたことを申し添えます。

理学同窓会
会長　鈴木富喜

支援事業

1　理学部ウエブサイトのリニューアル（ホームページの更新）

2　学生のリフレッシュスペース（Ａ棟自習室）の光熱費対策

3　海外留学支援（連携大学との契約/渡航費補助等）

支援理由等

1　現在のものに変更されてからかなり年月が経過しており、効果的なＰＲ・情報発信にはリニューアルが喫緊の課題であり、今後理学部と同窓会の連携を強化するためにも必要である。

2　光熱水費の高騰に伴い空調等の使用を控えている状況であり、遮熱性・遮光性の高いブラインドや扉等を設置し、学生が勉学に集中できる環境の確保をする必要がある。

3　毎年、10名以上が短期留学している。留学先大学（香港科学技術大学等）との契約費用も嵩んでいる。

海外の若手研究者、学生と交流を深めることは重要である。

大学と在学生そして同窓会の距離を近づけるために

理学同窓会 会長　鈴木 富喜

今年は、思いも寄らぬ能登半島を襲った大地震によって始まってしまいました。同窓生、在学生の皆様の中にも能登、輪島出身の方がおられますが、ご無事であったことを祈念するとともに被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

自然災害の不安も大きくなる中で、依然として続くロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの紛争など痛ましい国際間の問題や地球環境問題、さらにはChat-GPTに代表される生成ＡＩの技術の進展が芸術・文化、教育、産業と幅広い分野で明るい未来を築く可能性だけでなく悪用の可能性も抱えるなど、全く先の見えない時代に突入したように思います。

先が見えないといえば、これからの時代に「同窓会はどうあるべきか。」について考えてみたいと思います。現在の役員の大部分は同窓会設立時から続けており平均年齢も70歳を超えてます。会報送付、卒業研究論文抄録誌の発行等の同窓会事業や会費の徴収についても見直すときが迫っています。（このことについては、会報4面の役員会議事録の概要のところで不十分ではありますがふれさせていただきます。）

「知らない人の会に参加するのは苦痛です。」「大学や同窓会がどんな状況にあるか分からないのに、何か意見や支援を求められても困ります。」「大学、同窓会と自分を結びつけるメリット、興味は特にありません。」これらは、静岡大学（理学部）が発展していくことには異論はない（期待する）一方で、同窓会活動に消極的な方々から出てくる意見です。

こうした声を超えて「同窓会活動を活発にしていくためには何をすべきか」と頭を悩ます中で、「大学と卒業生との関係構築における学生同窓会の意義」、「学生と卒業生の相互関与の仕組み―米国の大学におけるStudent Involvementへのステップ」（原裕美氏、現立教大学　大学教育開発・支援センター）等の論文を目にしました。大学と卒業生とが生涯にわたって支え合う関係を在学中から築くために「学生同窓会」が果たす役割が大きく、設置を検討する必要があると在学生、さらに卒業生との関係を築いていくという発想です。運営資金（会計）も一定額は学生が独立して管理し活動できるようにし、こうした活動に取り組んだ学生が将来的にも大学、同窓会を支えていくという流れです。

学生同窓会を設置するには、組織（運営役員）、運営規則等、様々な課題はあるかと思いますが将来的な同窓会活動を展望するためには必要なことと考えています。まずは、その第一歩として同窓会として大学や在学生との接点を増やせるよう取り組んでいきたいと考えています。

2024年度　第11回理学同窓会東京支部総会
第９回地学同窓会総会　開催のご案内

【日時】2024年6月30日（日）12：00～17：00 開催予定
【場所】アルカディア市ケ谷 私学会館
〒102-0073 東京都千代田区九段北４丁目2-25
＊お申し込み方法など詳細は、
後日理学同窓会事務局ホームページでご案内いたします。

2024年度　静岡大学理学同窓会総会・科学講演会のご案内

11月に開催されます静岡地区静大祭に合わせて、理学同窓会総会及び理学同窓会主催の科学講演会を開催いたします。同窓生の多数のご参加をお待ちしております。

日　時：　令和6年11月2日（土）（受付13時より）
会　場：　理学部A棟2階大会議室（A209）
理学同窓会総会　13時30分より　　科学講演会　14時30分より

詳細は、後日あらためて事務局ホームページに掲載します。（なお、同日に地学同窓会・講演会も開催する予定ですので総会等の開始時間等に変更が生じる可能性があります。）

理学部ニュース

（2023年度）

3/30～7/27　サイエンスカフェin静岡　第36シーズンを開催
5/1　物理学科の森田健准教授が量子力学における不確定性関係を応用によって粒子の位置とエネルギーの期待値の間に成立する制限関係の導出に成功（ﾌﾟﾚｽﾘﾘｰｽ）
5/23　春季WEBオープンキャンパス・進路相談会
6/27　桂川大渡さん（理学専攻化学コース）が第12回JACI/GSCシンポジウムにおいて「GSCポスター賞」を受賞
7/ 4　化学科 松本剛昭准教授が物質・デバイス領域共同研究拠点から物質・デバイス共同研究賞を受賞
8/ 4　夏季オープンキャンパスを開催
8/11　静岡サイエンススクール2023夏休み特別企画「サイエンス・サマープログラム2023」を実施（学術院理学領域 大矢恭久准教授）
8/17～20　日本生物学オリンピック2023本選静岡大会
8/29　理学部が主担当の学際科目「静岡県の防災減災と原子力」が静岡新聞に掲載
9/21～ 2024年1/18　サイエンスカフェin静岡　第37シーズンを開催
10/14　田中直樹教授（数学科）が「2023年度日本数学会解析学賞」を受賞
10/19　「静大ー遺伝研合同シンポジウム」開催
11/14　阿部日誉里さん、木村太星さんが「日本地質学会第130年学術大会」において学生優秀発表賞を受賞
11/16　塚本錬さんが日本放射線安全管理学会にて優秀ポスター賞を受賞
11/19　「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ」実験講座開催
2024年
2/10　学校推薦型・総合選抜型入学試験
2/25　一般選抜（前期日程入学試験）
3/12　一般選抜（後期日程入学試験）

サイエンス　カフェ　in　静岡

主　　催：静岡大学理学部
場　　所：B-nest 静岡市産学交流センター
お問い合わせ：理学部総務係
Tel:054-238-3080
e-mail:scafeweb@suml.cii.shizuoka.ac.jp
HP:https://www.sci.shizuoka.ac.jp/science-café
Twitter:@SciCafeShizu34

2024年3月28日から第38シーズンが始まります。
第172話から176話までの予定、詳細はホームページをご覧ください。
皆さまの参加をお待ちしています。
（参加料　無料　申込み不要）

第36シーズンと第37シーズンの概要は次の通りです。

Science Cafe in Shizuoka 2023
サイエンスカフェ in 静岡

第36シーズン

■令和5年3月30日（木）
【第162話】光合成をわかった気になる話
粟井　光一郎
（静岡大学理学部　生物科学科）

■令和5年4月27日（木）
【第163話】共振器分子科学へのいざない～分子を鏡で挟んでみたら～
松本　剛昭
（静岡大学理学部　化学科）

■令和5年6月1日（木）
【第164話】（円周の長さ）＜（直径）×（円周率）!?～重力と曲がった空間の不思議な関係～
森田　健
（静岡大学理学部　物理学科）

■令和5年7月6日（木）
【第165話】岩石・鉱物から火山を探る
石橋　秀巳
（静岡大学理学部　地球科学科）

■令和5年7月27日（木）
【第166話】連続体仮説と選択公理
依岡　輝幸
（静岡大学理学部数学科）

■令和5年11月30日（木）
【第169話】柔らかい物質が作るナノ構造
岡　俊彦
（静岡大学理学部物理学科）

■令和5年12月22日（木）
【第170話】微分方程式の適切性～ベクトル空間の枠を超える挑戦～
田中　直樹
（静岡大学理学部　数学科）

■令和6年1月18日（木）
【第171話】光や温度を感じて生きる植物たち
木嵜　暁子
（静岡大学理学部生物科学科）

第37シーズン

■令和5年9月21日（木）
【第167話】全固体電池の実現に向けた固体電解質の開発」
守谷　誠
（静岡大学理学部化学科）

■令和5年10月26日（木）
【第168話】モゾモゾ、ゴソゴソ、どう視てた？：三葉虫の進化形態学
鈴木雄太郎
（静岡大学理学部　地球科学科）

静岡大学 理学同窓会役員会 議事録（会議の概要）

1　日　時
令和5年10月14日　午後1時30分～4時30分

2　場　所
静岡県男女共同参画センターあざれあ　4階第一会議室

3　出席者　会長、副会長、理事、東京支部副支部長、中部支部長等13名

4　議　事
(1) 会計に関して
同窓会発足時から現在までの会計報告から同窓会が取組んできた事業について確認した。
(2) 令和5年度会計報告・令和6年度予算案について
・令和5年度会計報告については、前年度繰越金の決算額を修正して報告する。寄付金は54万円あった。理学教育支援寄付と明確に記載のあった金額約20万円を別会計にするとともに、33万7千円を一般会計に計上する。
・COVID寄付金、100周年寄付金事業の最終的な会計報告がなされた。
・令和6年度予算については、100周年記念事業の残金を一般会計に戻して編成する。
会報の紙面をB4判4面とすることや卒業研究抄録誌の配布対象を卒業生に限定することで支出削減を図ることが協議され承認された。
(3)その他（課題等）
・役員の改選について一向に進んでいない。（新役員の候補等、次期役員会で示す。）
・同窓会役員候補者の推薦、大学生・院生の同窓会活動への参画の推進、理学教育支援寄付等について大学関係者（副学長、理学部長、同窓会連絡員等）と積極的に意見交換する。
・積極的に理学教育支援寄付を募る。（同窓会に期待する支援内容を明確にする。）
・事務局運営基金（終身会費積立金）の創設について意見交換したが継続協議事項とした。
創設を見送ったが、一定額の次年度繰越金の確保ができるよう節約に努める。
・総会資料のうち会計に関する部分は本日の協議で示された案を提出し承認を諮る。
本会議の議事録（詳細版）については11月4日理学同窓会の総会において示すことが確認された。
以上をもって本日の役員会の議事は終了した。
令和5年10月14日
議事録署名人（文責）
会長　鈴木　富喜
（注）物価高騰が続く中、会報の紙面削減、卒業研究抄録誌の印刷部数現など予算削減を進めさせていただきましたが、その後会報発送費用が倍増することが決定的となりました。これを受けて、会報の発送の在り方・広報について今後検討が必要であり、会報の有料化や送付対象等について変更する可能性があることをご承知ください。またＡＢＰ留学生支援についても協議中です。次年度総会にて決定しホームページで公表します。

静岡大学大学院
総合科学技術研究科
2023年度「理学同窓会寄付講義」
（於　理Ｂ202室）

第1回
4月13日(木)16:05～17:35
ガイダンス

第2回
4月27日(木)16:05～17:35
宇賀田　栄次氏
勤務先　静岡大学大学教育センター准教授

第3回
6月8日(木)16:05～17:35
大洞　貴仁氏
化学コース担当
勤務先　日立製作所　企画員

第4回
6月22日(木)16:05～17:35
矢田　雅哉氏
物理コース担当
勤務先　順天堂大学医学部　助教

第5回
6月29日(木)16:05～17:35
大洞　貴仁氏
化学コース担当
勤務先　日立製作所　企画員

第6回
7月6日(木)16:05～17:35
吉葉　諒子氏
地球科学コース担当
勤務先　ＳＡＰジャパン株式会社　一般職

第7回
7月20日(木)16:05～17:35
上田　奈津　実氏
生物科学コース担当
勤務先：東邦大学理学部　准教授

理学同窓会 寄付講義講師募集

大学院総合科学技術研究科の講義の一つとして、理学同窓会寄付講義が開催されています。

この講義は研究機関や企業・中高校等で活躍中の理学同窓会の会員により企業や研究所、教育現場などで今何をしているのか、働く現場ではどのようなことを学ぶべきかなど、在学中の経験を踏まえおよそ60分から90分講演をしていただきます。

後輩のために先輩としての貴重な経験談をしてくださる方を募集しています。学科・経歴などは問いません。奮ってご応募ください。

応募または推薦いただける方は、理学同窓会事務局または担当教員までご連絡ください。

令和６年度担当教員
化学科　近藤　満

静岡大学理学同窓会事務局
scialm@shizuoka.ac.jp
TEL/FAX 054-238-3081

令和６年度同窓会連絡委員
数学科　毛利　出
物理学科　森田　健
化学学科　近藤　満
生物科学科　鈴木　雅一
地球科学科
鈴木　雄太郎
放射線科学教育センター
近田　拓未

事務局だより

6年3月現在、理学同窓会事務局が入る理学部Ｃ棟が改修中です。この会報が皆さんのお手元に届く頃には、改修を終えた校舎で運営を再開していると思います。今年も11月に静大祭が開催と同時に理学同窓会ホームカミングデイを開催予定ですので、この機会に徐々にリフレッシュしていく静岡大学へ足をお運びください。

前回、新型コロナ感染症拡大で困窮学生への寄付を呼びかけましたが、今回から、在学生の学生生活や勉学・研究のためによりよい環境づくりを目指す寄付を開始します。静大理学部の未来のためにどうか多数の方々のご賛同を賜りますよう、心からお願い申し上げます。（松浦）

退任教員

研究を振り返って

物理学科　佐藤　信一

自分の研究の歴史を振り返ってみると、卒業研究で非平衡物理学を研究している研究室を選んだことから始まりました。非平衡とは常に物質やエネルギーの流れがある状態を指します。そのような流れのある系でこそ多様な振舞いや構造が観測されるという考えに基づいて、「ヒドラ」、「熱対流」、「樹枝状結晶」などの非平衡系の研究が行われていました。ヒドラはクラゲやイソギンチャクの仲間で大きさは1センチぐらいの　細かく輪切りにしても全体を再生する不思議な生物で、再生機構を実験と数理モデルで研究していました。私の大学院での研究テーマは熱対流で、それに関連して「カオス」と「フラクタル」の研究を行いました。カオスとは決定論的式に従っている系が予測不可能に見える複雑な振舞いを示すことで、流体の乱流もカオスです。その予測不可能性は僅かな状態の差が時間とともに増大することにあります。カオス研究でよく知られたモデルが蝶の羽のような軌道を形成することから、「北京で蝶が羽ばたけば、ニューヨークで嵐が起こる」という冗談がありました。映画やドラマでは「バタフライ効果」などと呼ばれていてカオス研究に由来しています。

他方のフラクタルは、部分を拡大すると全体と相似になるという自己相似な構造を意味し、写真のような樹枝状パターンはフラクタル図形の例です。拡散律速凝集と呼ばれる数理モデルで作ったもので、雪の結晶とも関連しています。大学院生だった頃は、カオス、フラクタルが注目されて多くの研究発表がありました。研究の黎明期に立ち会えたことは幸運で、研究室での熱い議論が懐かしく思い出されます。カオスやフラクタルの研究は自然が示す複雑さとは何かを捉え直す契機となり、それまで物理学の研究対象として深く考えられてこなかった複雑な現象、例えば動物や昆虫の群れの運動、経済現象まで研究が広がってきました。近年は、人工知能や量子コンピュータの進歩により人間の思考力に勝る日が来ると予想され、予測不可能な未来に対処するときに理系の素養がますます重要となってくると思います。今後の理学部の更なる発展を祈っています。

駿河湾をのぞむ研究室からご挨拶

物理学科　冨田　誠

着任以来37年間、理学部の皆様には本当にお世話になりました。そして、学生さんの存在は、いつも私自身にも大きな原動力になっていました。

大学での思い出は沢山ありますが、二つほど思い起こしてみたいと思います。一つは、指導学生でもあったP. Talukder氏と協力して、ダッカ大学との間に部局間協定を締結させることができたことです。当時、国費留学生の採用に関して、大学間に継続性のある関係を求められるようになっており、静岡大学でもいろいろな大学と協定を増やしていました。協定締結にあわせて、ダッカ大学を訪問する機会がありましたが、ダッカの街は路地に人と力車（三輪の自転車）があふれかえり、喧騒と祈りが広がるテーマパークのようでした。また、光学実験装置の贈呈などは現地メディアでも報道して頂くことができて少し驚きました。当初、継続性を心配していた協定ですが、現在まで、理学部の研究室でも多くの留学生、招聘研究者を受け入れるにいたっており、よかったなと思っています。

もう一つは、平成16から5年間おこなったCOE事業です。COEはCenter of Excellenceの略で、独立法人化直後の国立大学に、文科省が研究の特色と拠点性を確立することを求めて展開されたプログラムです。静岡大学では、なかなか採択されなかったのですが、当時、理学部出身の天岸学長も積極的に音頭を取って、やっと獲得したものでした。このプログラム自体は、テレビジョン技術の発祥の地、電子工学研究所（浜松キャンパス）が中心になっていましたが、静岡から私も参加させていただくことができ、学生さんと一緒に微小光共振器の研究を進めました。また、その流れもあってか、研究室OBの伊藤哲君が浜松にポストをいただいて活躍中なのはうれしく思っています。両キャンパスが未来に向かってよい関係を作れることを祈っております。

静岡は、山も海も川もあり、とても魅力的です。昨年は北岳や粟ヶ岳に登りました。粟ヶ岳は掛川市にあり、新幹線の車窓からも大きな「茶」の字が見えるあの山です。今後も、健康維持をかねて近くの山を登ってみたいと思っています。同窓会の皆様、一緒に登れるような機会があったら是非声をかけてみてください。

物理学科　山崎　晶一

1987年の着任以降、静岡大学理学部、静岡大学創造科学技術大学院、静岡大学電子工学研究所等で生物物理学分野の研究を続けられ、学生の指導にご尽力いただきました。また、本年度は同窓会連絡員としてもご協力いただきました。感謝申し上げます。

新任教員

生物科学科助教　伊藤　舜

2024年4月1日付で理学部生物科学科に助教として着任します。私は、調査地が伊豆半島と伊豆諸島であるため、これまでに数えきれないほど静岡県に通ってきました。その中で、この美しい土地を拠点に研究教育を行いたいと望むようになっていたので、理学部の仲間に加われることを大変嬉しく思います。初めての研究室運営なので不安もありますが、それ以上に楽しみでもあります。

私の研究では、小動物、特に陸産貝類に着目して、伊豆半島と伊豆諸島だからこそ検証できる島嶼での進化と半島化による多様化を調べてきました。今後は静岡大学の地の利を活かして、これらフィールドでの研究を発展させていきたいです。また、南アルプスや富士山といった伊豆半島以外の静岡県にある魅力的なフィールドにも足を運び、学生たちと進化生態学的研究を進め、この地域の面白さを発見・発信していきたいと考えております。

そのほか、次の先生方が2024年4月より着任されます。

物理学科　清水　康弘
物理学科　斉藤　俊貴
物理学科　野村　肇宏
生物科学科　村上　博紀

（次年度）挨拶をいただきます。）

数学科の活動

木村　杏子

令和5年度中の数学教室の大きな出来事として、理学部C棟改修工事が挙げられます。6月頃から理学部C棟のセミナー室や研究室が使用できなくなり、教員や大学院生の居室も、理学部A棟や他学部の教室を間借りする形となりました。そして教室会議は主にオンラインとなりました。また、セミナー室の不足により、定例以外のゼミを行うにも講義室の空き状況との相談になりました。そんな中でも、足立真訓先生、天野政起先生（静岡県立大学）、四乃宮佳彦先生（教育学部）を世話人とする「複素解析幾何セミナー」は令和5年度中に6回実施することができました。また12月には木村が世話人となり「組合せ論と可換代数ウインターセミナー」を開催することができました。

11月には数学科所属の学生である作家名Kittさんが、静岡大学附属図書館ギャラリー展「切り絵展～円と直線～」を開催しました。

教員の活躍として、田中直樹先生が「発展方程式に対する抽象理論の研究」により2023年度日本数学会解析学賞を受賞されました。また、サイエンスカフェin静岡において、7月に依岡輝幸先生が「連続体仮説と選択公理」という題目で、12月に田中直樹先生が「微分方程式の適切性～クトル空間の枠を超える挑戦～」という題目で講演を行いました。

理学部各学科活動

物理学科の活動

山崎　晶一

（2023年4月）学部のカリキュラムが本年度の新入生から新しくなりました。必修の授業が減り、学生の選択の幅が増加する新カリキュラムです。新入生が一通り全体の新カリキュラムを経験するには4年かかります。また、新カリキュラムの成果を判断するためには、今後少なくても3～5年程度の新入生に対する成果を見る必要がありますので、新カリキュラムの評価が可能になるのはかなり後のことです。

（2023年6月）「理学同窓会寄付講義」に、物理学科の卒業生で現在は順天堂大学医学部助教の矢田雅哉先生にお越しいただき、「教養としての素粒子物理」の講演をしていただきました。受講生もたくさんおり、盛況でした。

（2024年1月）従来は、卒業研究のための学生の研究室配属は4年生の4月に行われてきましたが、本年度から3年生の1月に前倒しして行われることに変更されました。数年後にこの変化がどのように評価されるかが楽しみです。

（2024年3月）2023年度末には3名の実験系の教授の方が退官されます。量子光学、非線形物理学、生物物理学の分野の研究・教育に御尽力されました。2024年度からは、2名の物性物理学の教員が着任されます。研究分野も大きく変わるので、教育・研究の雰囲気も一新されます。この教員の変化による学科の変化も、新カリキュラムと同様に、成果がわかるまでに時間がかかると思いますが、大いに期待したいと思います。

化学科の活動

守谷　誠

2023年度はほぼすべての講義が対面形式によって行われるようになりました。コロナ禍での不自由さが払拭され、学生間あるいは学生と教員との間の交流が以前と同じような状況に戻ってきました。その一例として、3年生を対象とした研究室見学会とその後の懇話会が数年ぶりに対面形式で開催されました。懇話会では、コロナ禍以前と同様に、3年生から大学院生までの学生と教員のほぼ全員が出席し、生協第二食堂にて食酒を楽しみながら、学年や学生と教員という立場を超えて交流を深めることができました。

寄付講義では、守谷研を卒業し、現在は株式会社日立製作所にお勤めの大洞貴仁先生を講師にお招きしました。大洞先生は、理系人材として修士課程を修了した後、一貫して人事畑を歩むというキャリアをお持ちの方です。このような自らの経験をもとに、人事から見た理系人材の可能性とキャリア形成という観点から、静大理学部の学生に向けたエールともとれる講義を2回にわたって行って頂きました。なお、この講義では、就職活動に向けてのアドバイスに相当するような内容もあり、インターンシップなどを含めた就職活動の早期化が進む中、受講生にとっては社会人の一歩を踏み出すうえでの貴重な情報を得る機会になったと思います。

今年度から化学科は教員13名という、昨年度から1

名減となった体制での運営となりました。地方国立大学を取り巻く状況は厳しさを増すばかりです。定年退職後の教員補充が行われず、その一方で業務が減ることもないということで、各教員の負担は増加の一途をたどっています。とはいえ、このような中でも研究成果の積極的な対外発表を行うとともに、大型予算の獲得に成功している教員もおり、化学科としては充実した教育環境と活発な研究活動を維持できていると言える状況にあります。今後も静岡大学の活動をご支援頂ければと幸いです。

生物科学科の活動

鈴木　雅一

生物科学科と修士課程生物科学コースには、現在それぞれ12名と16名の教員が所属しており、学科長は藤原健智先生が務めています。昨年度に学科のカリキュラムの一部が改訂されて、学部3年の後期から研究室配属されるようになり、研究室では、学部3年生から博士課程3年生まで総勢156名の学生（留学生26名）が研究に従事しています。今年度も学術的活動や地域貢献などに励み、論文発表（Scientific Reports, Communications Biology, Current Biology, ISME Communications 等）、学会発表（日本動物学会大会、日本化学会大会、日本比較内分泌学会大会等）、静岡ライフサイエンスシンポジウムの開催、日本生物学オリンピック2023本選静岡大会の開催、サイエンスカフェin静岡での講演などを行いました。また、地域貢献活動が静岡新聞に掲載されました。

2024年3月には、学部学生44名が卒業し、修士課程学生12名が修了する予定です。そして翌4月には教員の移動があり、大林龍胆先生が東京都立大学へ転出し、若手の伊藤舜先生（専門は進化生態学・島嶼生物学・貝類学）が新メンバーになります。2024年度は、竹内浩昭先生が本メンバーとして過ごされる最後の年度になりますが、教員一同、在学生と共に前進していけるよう努めます。

地球科学科の活動

久保　篤史

2023年度地球科学科では、平内教員の指導学生の阿部日誉里さん、木村太星さん（修士2年、総合科学技術研究科理学専攻地球科学コース）が日本地質学会第130年学術大会において学生優秀発表賞を受賞しました。北村教員が日本古生物学会会長に就任しました。北村教員の熱海土砂災害調査に関する報道（朝日新聞や読売新聞など）や能登半島地震による津波調査に関する報道（静岡新聞）がされました。三井教員が取材協力した番組（わたしの防災スペシャル、SBSテレビ）が放送されました。三井教員の地殻変動に関する取材記事に関する報道（中日新聞）がされました。ルグラン教員の被子植物の花粉化石に関する研究が報道（北海道テレビ、日本経済新聞など）されました。卒業生の小山教員（静岡大学防災総合センター・副センター長・教授）が令和5年度防災功労者内閣総理大臣表彰、2023年度日本火山学会賞、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。地球科学科では学科ウェブページにニュースや学生の活躍をアップロードしていますので、是非ご覧ください。

（https://www.shizuoka.ac-jp/geosci/）

【お悔み】

堀田明男先生

静大理学部物理学科
平成10年退職
令和5年11月27日（89歳）御逝去されました。

長年にわたり原子核物理学分野の研究、学生の教育にご尽力いただきました。
ご冥福をお祈りいたします。

理学同窓会総会 科学講演会 ＆地学同窓会総会 地学講演会

令和5年11月4日（土）にキャンパスフェスタin静岡と同時開催にて、理学同窓会総会、ホームカミングデイ＆科学講演会が理学部A棟2階大会議室にて開催されました。またあわせて地学同窓会の総会・地学講演会も開催されました。

全体として28名の方々に参加していただくとともに会が終了後、アスティ静岡内の居酒屋にて久しぶりの懇親会が開かれ楽しいひと時を共有することができました。懇親会には講師の方も含め15名の方々にお集まりいただきました。

1　地学同窓会総会・地学講演会
（12時45分～14時10分）
演題
「静岡の大規模自然災害」
講師　北村晃寿
（静大防災センター長・教授）

2　理学同窓会総会・科学講演会
(1) 総会
（14時15分～15時00分）
役員会（10月14日）議報告の報告後、令和5年度会計報告（第1号議案）並びに令和6年度事業計画及び令和6年度予算案（第2号議案）を審議した。その結果両議案は承認された。

(2) 科学講演会
（15時～16時10分）

演題
「未来の数理科学教育を切り拓く」
講師　濱本 久二雄
（ターンイットイン・ジャパン アカデミックアドバイザー）

なお、静岡大学理学部長山本歩氏、静岡大学副学長塩尻信義氏からご挨拶をいただいた。

静岡大学理学同窓会 東京支部・地学同窓会　活動報告

2023年の活動報告

（令和5年1月28日～令5年12月19日）

2023年は支部幹事会を3回持った。5月27日にはアルカディアにて東京支部総会を29名の参加者を得て、また同日第4回東京交流会を学長、学部長などの招待者を含め124名の参加を得て盛況のうちに終わった。支部総会では支部の比田井昌英氏が「宇宙の歴史のなかで元素はどのように作られたか？」という題名で、交流会では支部長の藤岡換太郎氏が「賤機山物語－静岡県の地形と地質、歴史と災害！」という題名で講演が行われた。記念公演として佃川燕也様、佃川松苞様による「大江戸玉すだれ」が行われた。12月19日（火）には2023年の最後の幹事会を行った。

理学同窓会東京支部の組織

（2023年12月19日現在）

支部長　藤岡換太郎（1971年卒）、副支部長兼書記　志田原巧（1974年卒）、副支部長兼会計　足立信広（1984年卒）、幹事　比田井昌英（1970年卒）、山川恵子（1971年卒）、鈴木恒久（1982年修了）、竹内真司（1991年修了）、原口悟（1994年卒）、加藤和浩（2003年修了）、野中美雪（2003年卒）、会計監査　工藤信一郎（1970年卒）

中部支部役員募集

中部支部の活動をお手伝いしてくださる方を募集しています。

お問い合わせ・ご意見、ご推薦等、静岡大学理学同窓会事務局までお寄せください。

2024年度予算案（R6予算）

2023.11.4

一般会計	項　目	予算案	備考
収入の部	前年度繰越金	953,791	
	年会費	4,290,000	220名×3万×0.65
	受け取り利息	0	
	寄付金	200,000	
	雑収入	0	
	その他	518,013	100周年記念事業残金を一般会計へ
	合計	5,961,804	

	項　目	予算案	備考
支出の部	印刷費（会報9,000部）	650,000	B4版4面に
	印刷費（卒業抄録集400部）	550,000	
	印刷費（冊子など）	150,000	会報送付文等
	印刷費（封筒、はがきなど）	200,000	連絡はがき・振込用紙等
	通信費	950,000	会報・大学広報送付等
	料金後納費用	15,000	はがきの返信
	会議費・交通費	200,000	役員会・支部会議・共通旅費等
	総会関連費	200,000	11月を予定
	卒業式関連費	20,000	生花・写真
	送金手数料	45,000	静岡銀行、JP
	備品代	100,000	パソコン
	支部活動運営費	300,000	東京支部・中部支部
	事務用品、消耗品	50,000	紙、インク代等
	事務手数料・謝金	900,000	謝金・アルバイト
	慶弔費	20,000	
	特別講座支援	300,000	特別講義
	特別支援（ABP留学生）	0	ABPは理学教育支援寄付金計で支出
	理学教育支援	100,000	理学教育支援寄付金会計へ
	次期周年事業準備金	210,000	積立金となる
	次年度繰越金（含 予備費）	1,001,804	
	合計	5,961,804	

2023年度会計報告(R5会計)

（会計期間2022年10/1～2023年9/30）　2023.11.4

		予算案	決算	比較増減	備考
収入の部	前年度繰越金	799,823	605,965	△193,858	
	年会費(220x3万x0.7)	4,620,000	4,230,000	△390,000	141名分
	寄付金	20,000	543,000	523,000	
	雑収入	0	2,857	2,857	同窓会室の保管金
	その他	0	0	0	
	合計	5,439,823	5,381,822	△58,001	

		予算案	決算	比較増減	備考
支出の部	印刷費（会報9,000部）	950,000	1,019,700	69,700	
	印刷費（卒業抄録集630部）	700,000	658,350	△41,650	
	印刷費（冊子など）	150,000	61,600	△88,400	送付文あいさつ8,000枚
	印刷費（封筒、はがきなど）	200,000	374,550	174,550	はがき9300枚、振替票20,000枚、角2封筒8,000枚
	通信費	800,000	853,162	53,162	発送手数料、MDメール便
	料金後納費用	0	9,666	9,666	はがきの返信
	会議費・交通費	430,000	59,640	△370,360	東京交流会3名
	総会関連費	0	97,380	97,380	講演料、お弁当代、交通費
	卒業式関連費	0	15,500	15,500	撮影費と生花
	送金手数料	40,000	47,501	7,501	日本郵便、静岡銀行
	備品代	0	0	0	
	支部活動運営費	330,000	230,000	△100,000	東京支部、東京交流会後助
	事務用品、消耗品	50,000	83,127	33,127	インク、紙など
	事務手数料・謝金	470,000	630,000	160,000	謝金、アルバイト630時間
	慶弔費	20,000	0	△20,000	
	特別講座支援	300,000	31,800	△268,200	寄付講座講義
	特別支援（ABP留学生）	300,000	0	△300,000	2024年度で対応
	支援卒業生支援	0	10,000	10,000	9名の静大への交通費補助
	マスク支援	0	43,400	43,400	2,000枚
	理学教育支援支援（別会計へ）	—	202,655	202,655	
	次年度繰越し金（予備費）	699,823	953,791	253,968	
	支出額合計	5,439,823	5,381,822	△58,001	

別会計　　100周年記念事業

	項　目	予算案	最終決算
収入	100周年寄付金繰越金	490,000	490,000
	令和4年度寄付金	200,000	154,000
	一般会計よりの援助金	1,000,000	1,000,000
	合計	1,690,000	1,644,000
支出	実行委員会への支援	1,000,000	1,000,000
	コラム執筆料	2,000	2,000
	レターパック、44枚	0	22,880
	料金別納145件	0	36,500
	100周年会場設営		1,952
	100周年記念式典役員旅費		39,000
	記念式典懇親会補助		17,110
	記念誌発送費用		6,545
	繰越し(11月の実行費用)	688,000	※518,013
	合計	1,002,000	1,125,987

令和6年度別会計　理学教育支援金（予算）

	項　目	予算案	備考
収入	（前年度寄付金一般会計から）	202,655	
	一般会計より	100,000	
	寄付金	250,000	(※)
	合計	552,655	
支出	ABP留学生支援（※）	157,360	学部生2名、院生6名、卒確定分
	その他教育助成費	390,295	
	振替手数料	5,000	
	合計	552,655	

（※）理学教育支援寄付を積極的にPRすることで、一層の増収を図る